

新型コロナウイルス感染症が始まって2年が経過

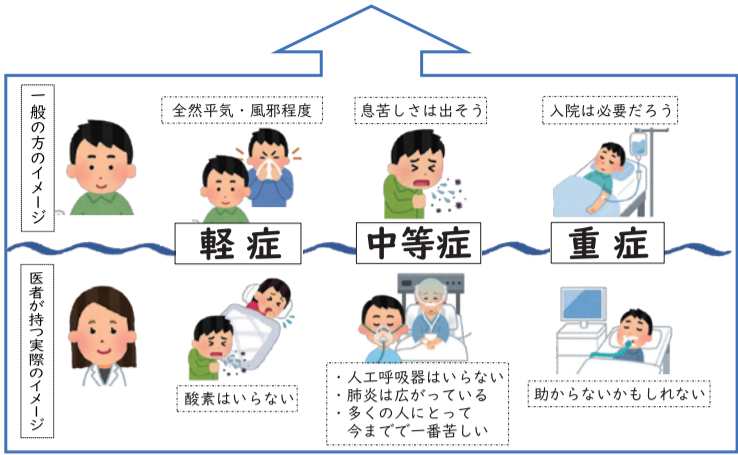
みどり病院 薬剤部部長 今西正人

この記事を書いているのが1月中旬であるため、「健康とくらし」に掲載される頃には想像もつきませんが、現在オミクロン株の感染拡大により、新規陽性者数が爆発的に増加しています。これは2021年末に欧州で観察された現象と酷似しており、従来のデルタ株の時とは異なる様相を呈しています。

国内では第5波までを経験し、重症肺炎に伴う入院患者数・死亡者数が多かった時と比べ、ECMOや人工呼吸器の稼働状況は全国的に見てもまだ少ないです。しかし今後、沖縄県のように新規陽性者数という母数が増加すると、どこかのタイミングで重症者数も増加する可能性が否定できないため、気を抜くことができません。

仮に陽性者になり「しんどい、オミクロン株って軽症だと報道されていたはずなのに」「いえ、これが軽症なんです」と言われることにならないよう、一般の方々が想像する「軽症・中等症・重症」と、医療関係者が(定義に基づき)診断するそれには大きな隔たりがあることを、改めて知っておく必要があると思います(図を参照)。

一般の方と医師が持つ新型コロナウイルス感染症のイメージの違い



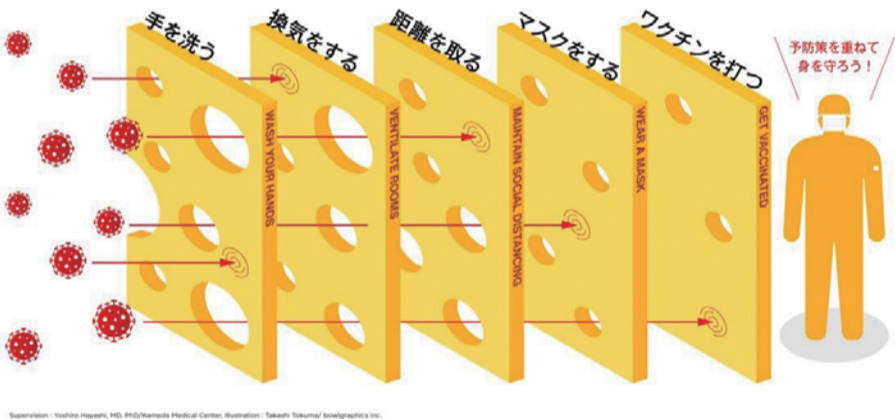
テレビが伝える「オミクロン株は比較的軽症な傾向」という情報のみが独り歩きするのはよくありません。比較的「傾向」であり、あくまでもデルタ株と比較しての話です。今後も新たな知見が集積され、定義や考え方が次々と更新されていくため、扱いが変わっていくと思われる。

2021年12月31日付でイギリス保健省から出された「オミクロン株に対するmRNAワクチンの発症予防効果に関する報告(※)」によると、
・2回目接種から5〜6ヶ月経過すると、オミクロン株の感染自体をほとんど防いでいない
・3回目接種後でも2〜3ヶ月経過すると効果の低下が観察されたことより、現在使用されているmRNAワクチンでは、オミクロン株の感染拡大を長期的に抑えることは困難...と考えざるを得ません。

しかし入院予防効果はある程度継続することがわかった(3回目接種するとさらに効果的)。ただし、まだ接種2週間後までのデータのため、まったく意味がないということではありません。
(※SARS-CoV-2 variants of concern and variants under investigation in England Technical briefing: Update on hospitalisation and vaccine effectiveness for Omicron VOC-21NOV-01(B.1.1.529))

抗体製剤と呼ばれる注射剤や新たに承認された内服薬もありますが、臨床試験の成績だけでは「十分な有効性あり」と判断しづらいため、みどり病院では積極的に使用(処方)することは現時点(1月中旬)ではしていません。頼るのは治療薬ではなく、「密を避ける+効果的な(科学的根拠に基づく)換気をする+不織布マスクの着用」を基本とし、可能ならワクチン接種という、基本的な感染対策を継続するしかない...と考えます。

Swiss cheese model 新型コロナウイルス予防策



2020年2月から新型コロナウイルス感染症が本格化し、すでに2年が経過しました。

私自身は日進月歩の世界で仕事をしていることもあり、「新たな知見に適合していく」ことが求められるため、例えば「会議室に大勢集めて会議する・直接対面で行うのが危険であれば、代替の方法(=オンライン)でなんとかする」という具合に変えて実行してきました。

「いつまで続くのか?」という気持ちは心情としては理解できますが、終わりを期待して「元のやり方に戻そう」するのではなく、「受け入れる」「新しい生活様式にしていく」と能動的に切り替えていくことが必要となるでしょう。

10月から車を運転する会社でアルコールチェックが義務化されます!

今年(2022年)10月1日から白ナンバーの車を一定台数以上使う会社に対してアルコール検知器による酒気帯びの確認が義務付けられることになりました。これは昨年6月に千葉で飲酒運転のトラックが児童5人を死傷させた事故を受けたものです。今ではお酒を飲んでからの運転は社会的に許されない時代になりましたが、案外見過ごされがちなのが前夜に飲んだアルコールが残って飲酒運転になってしまうケースです。

個人差はありますが、アルコール2ドリンク(例:ビール500ml(下図参照))が体内で分解されるのにだいたい4~5時間かかると言われています。例えば6ドリンク以上飲むと半日以上アルコールが体内から消えないこととなります。翌日に車で出勤するとなると、それを見越して飲酒量を考える必要があるわけです。

ちなみに厚生労働省は健康に害の出ない飲酒量を男性で1日純アルコール20g(2ドリンク)としています。女性や高齢者などはその半分が目安になります。アルコール問題についてお悩みの方はお気軽にご相談ください。

連絡先: すこやか診療所 058-243-0791 (担当: 只隈)

アルコール飲料ドリンク換算表(厚生労働省ホームページより)							
	日本酒	ビール	ウイスキー	焼酎	ワイン	カクテル(果実酒)	梅酒
種類							
量	1号180ml	中びん500ml	ロック80ml	お湯割り180ml	60ml	200ml	ロック30ml
ドリンク	2.2	2	2.8	1.8	0.6	0.7	0.3

みどり病院・すこやか診療所アルコール委員会

地域(岐阜市在住)のお子様も入所できます

わらべ保育所(事業所内保育所)



わらべ保育所は、40年前の1982年、みどり病院の職員の子どもを対象にした院内保育所として誕生しました。これまで約220名の卒所生を送り出してきました。

2018年4月、新築移転を機に岐阜市の認可による「事業所内保育事業所」として再出発しました。高齢者住宅、ケアハウスささゆりに近接しています。

認可保育所として職員枠(20名定員)に、新たに地域枠(10名定員)を加え、30名定員の小規模保育所として運営を始めました。職員数は、常勤保育士5名、非常勤保育士4名、調理師1名、施設長1名、合計11名です。

「こどもの権利条約」の精神を尊び、子どもたちが心身ともに健やかに育ち、自立できる人に育っていくことをめざし、職員と地域の子どもの保育を提供しています。天気の良い日には豊かな自然の中、毎日近所をお散歩し、地域の皆さんにのんびりかかっています。保育所内で手作りの給食・おやつを調理し、離乳食・アレルギー食にも対応しています。

生後6か月から3歳の年度末までの保育をしています。3月は28名が入所しています。

岐阜市在住の地域の皆さんからの入所も積極的に受け入れています。ご相談ください。

連絡先: 058-241-2069

